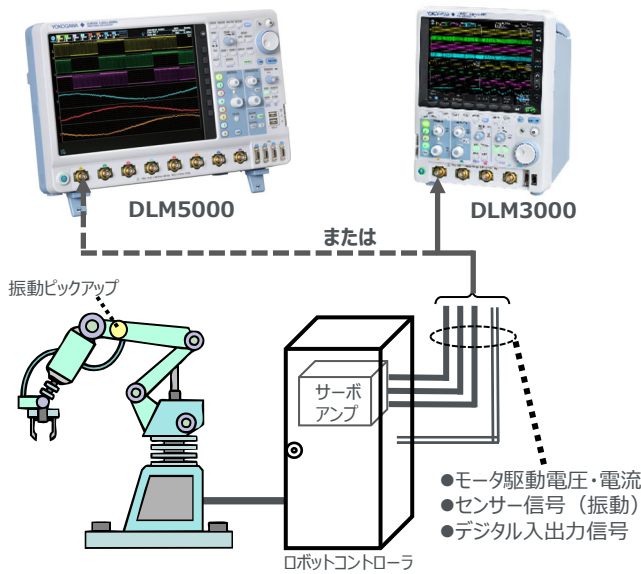


アプリケーションノート

ロボットの連続動作試験

ミックスドシグナルオシロスコープ DLM3000 / DLM5000



概要

ロボットの開発や設置調整で行う連続動作試験では、ロボットの制御信号（電圧・電流・ロジック）とアームや関節の振動や位置ずれ（センサー検出）を測定し、ロボットの動作速度・位置決め精度の分析を行います。

ポイント

- アナログ & ロジックを一台で測定
- 500Mポイントのロングメモリーによる長時間測定
2.5GS/sで0.2秒、2.5MS/sで100秒の長時間測定が可能
- ヒストリ機能
過去に取り込んだ波形を最大100,000個、アキュジションメモリーに保持。後から抽出して解析が可能。
- FFT・メジャー機能・統計処理機能
信号のFFTに加え、波形パラメータの自動測定、統計処理が可能。
- CAN/CAN FDバス解析機能（オプション）
バスのオートセットアップ機能で面倒な初期設定不要。

Precision Making

記載内容は2021年5月10日現在のものです。また、お断りなく変更することがありますのでご了承ください。価格には別途消費税が加算されます。All Rights Reserved. Copyright © 2021, Yokogawa Test & Measurement Corporation

特長

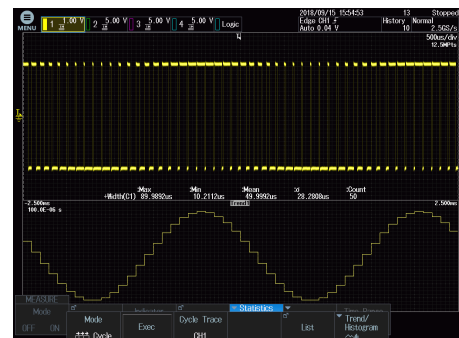
- アナログ & ロジック混在多チャンネル測定

形名	最大チャンネル数
DLM3000	アナログ4または アナログ3+ロジック8（4chモデル）
DLM5000	アナログ4+ロジック32（4chモデル） アナログ8+ロジック32（8chモデル） ※2台連結可能（/SYNオプション）

- PWM波形のメジャーパラメータのトレンド表示
入力信号のパルス幅や周期、Dutyなど、1周期ごとの周期変動を波形と同時にトレンド表示できます。
- 電力演算機能（オプション）
電源電流の高調波解析や、有効電力、力率等の電力パラメータ測定が可能です。



アナログ信号とロジック信号の同時観測例



PWM波形とパルス幅変動のトレンド表示例